

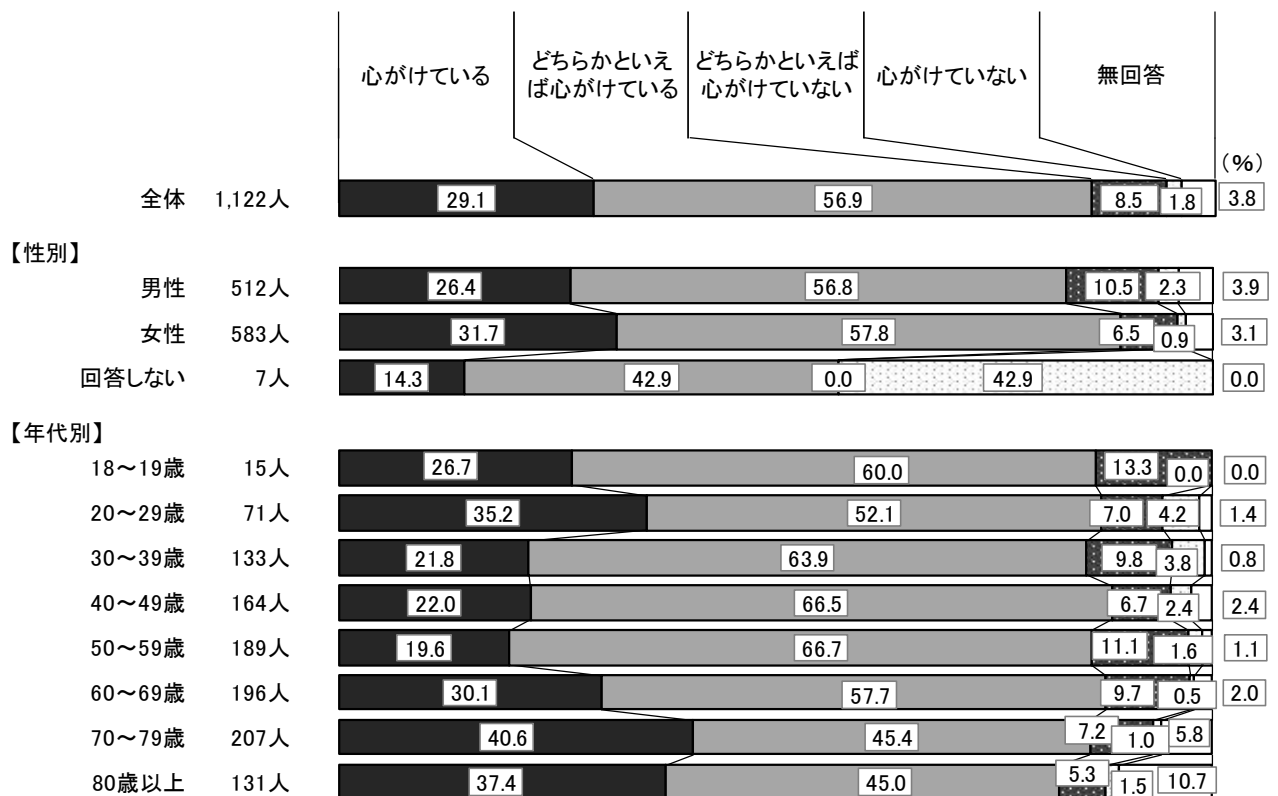
4 環境について

4-1 環境配慮状況

◆ “環境に配慮した生活を心がけている” 86.0%◆

問9. あなたは、環境に配慮した生活を心がけていますか。1つ選び、番号を○で囲んでください。

環境配慮状況



全体では「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」をあわせた“環境に配慮した生活を心がけている”の割合が86.0%、「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」をあわせた“環境に配慮した生活を心がけていない”の割合が10.3%となっています。

性別でみると“心がけている”は女性（89.5%）が男性（83.2%）を6.3ポイント上回っています。

年代別でみると「心がけている」は70～79歳で40.6%と最も高く、次いで80歳以上で37.4%となっています。また“環境に配慮した生活を心がけている”は、40～49歳で88.5%と最も高く、いずれの年代でも8割を超えています。

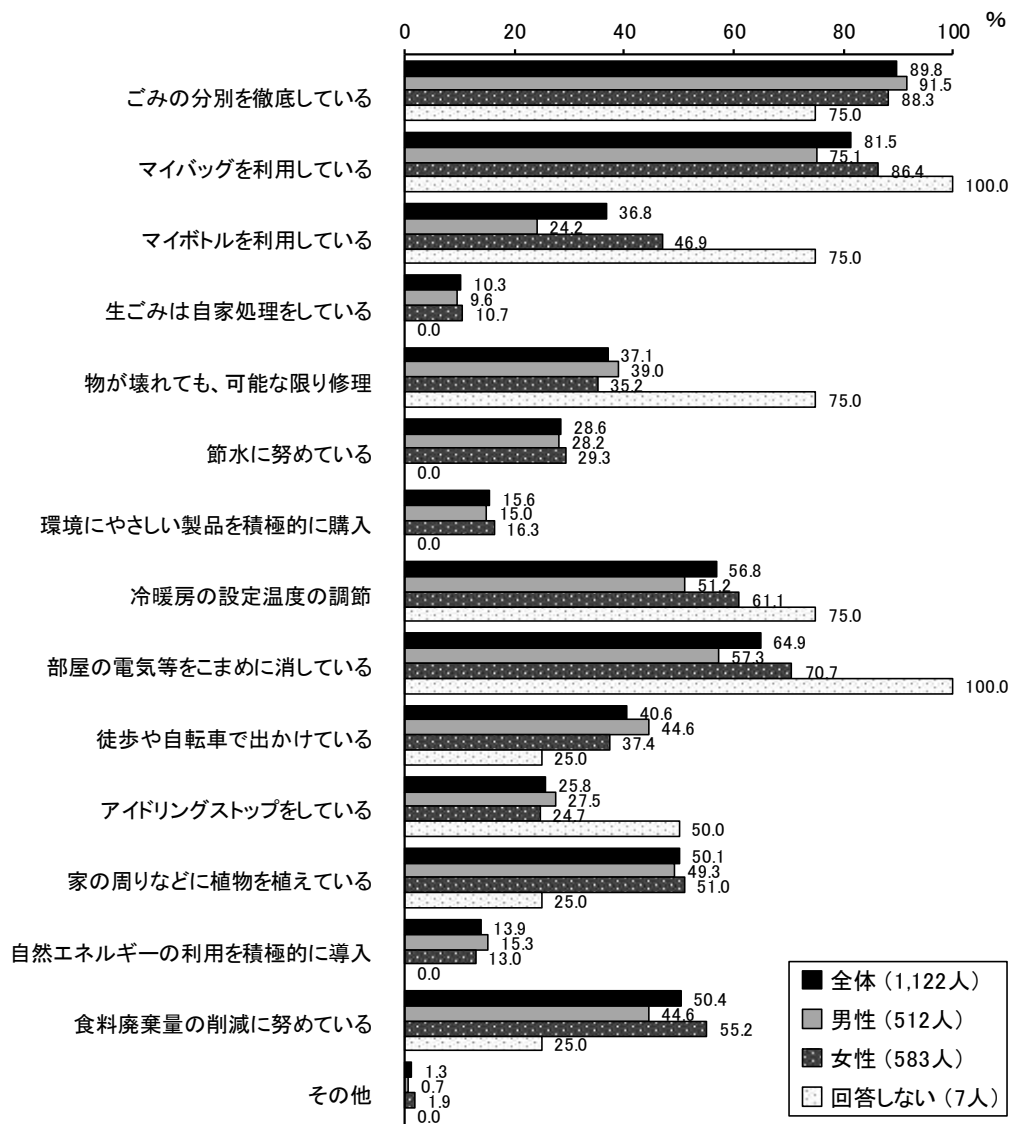
4-2 環境のために心がけていること

◆「ごみの分別を徹底している」89.8%◆

(問9で「心がけている」または「どちらかといえば心がけている」とお答えの方におたずねします。)

問9-1. 日常生活の中で、具体的に心がけていることは何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

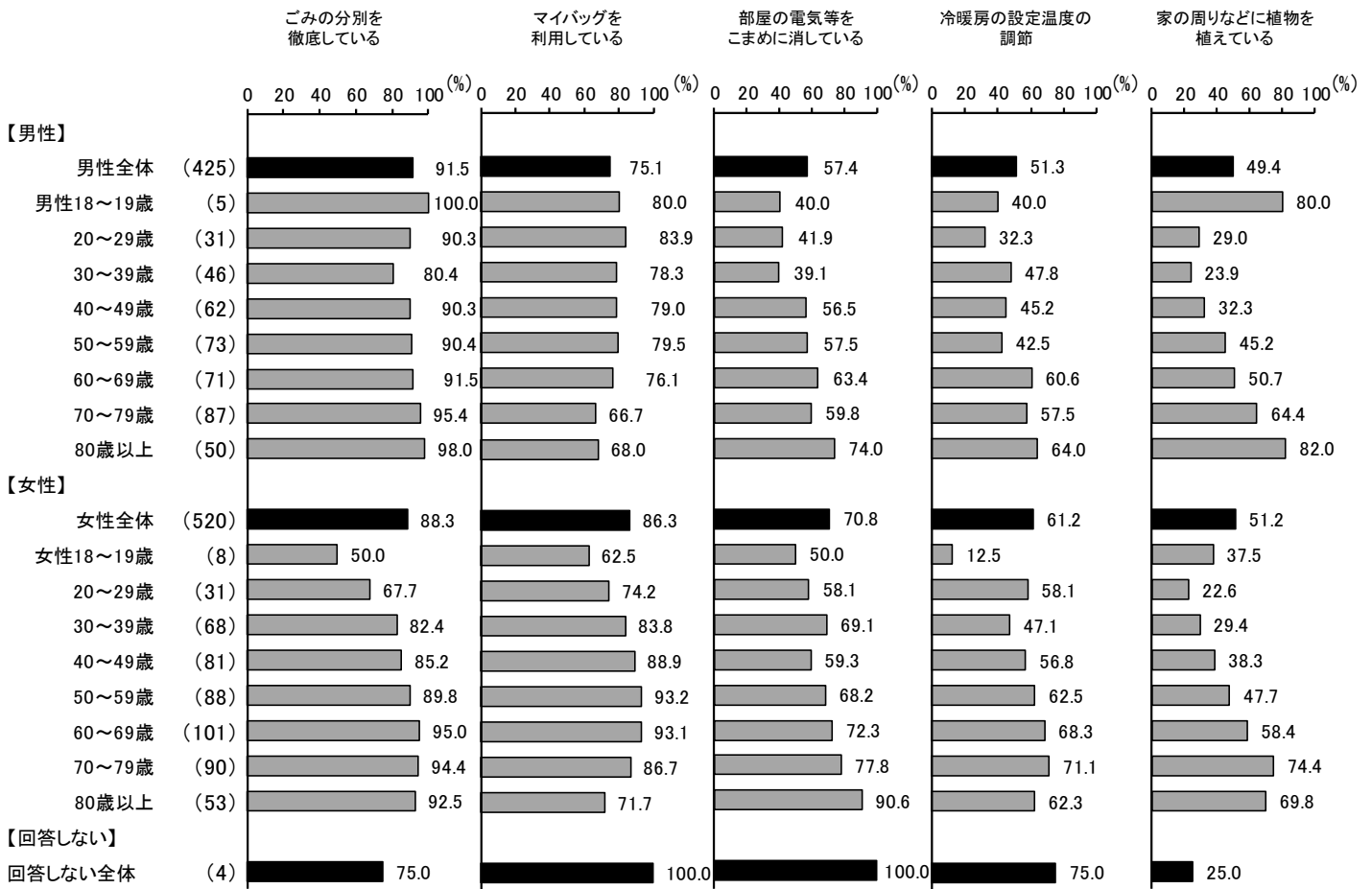
環境のために心がけていること (全体・性別)



全体では「決められたとおりにごみの分別を徹底している」の割合が89.8%と最も高く、次いで「マイバッグを利用したり、過剰な包装を断ったりするなどごみの減量化に努めている」の割合が81.5%、「部屋の電気やテレビのスイッチはこまめに消している」の割合が64.9%となっています。

性別でみると「マイバッグを利用したり、過剰な包装を断ったりするなどごみの減量化に努めている」「マイボトルを利用したり、使い捨てプラスチック製品の利用を控えている」「部屋の電気やテレビのスイッチはこまめに消している」は女性が男性を10ポイント以上上回っています。

環境のために心がけていること（上位5項目 性・年代別）



性・年代別でみると「ごみの分別を徹底している」は女性の18～19歳、20～29歳を除く全ての年代で8割を超えて高くなっています。

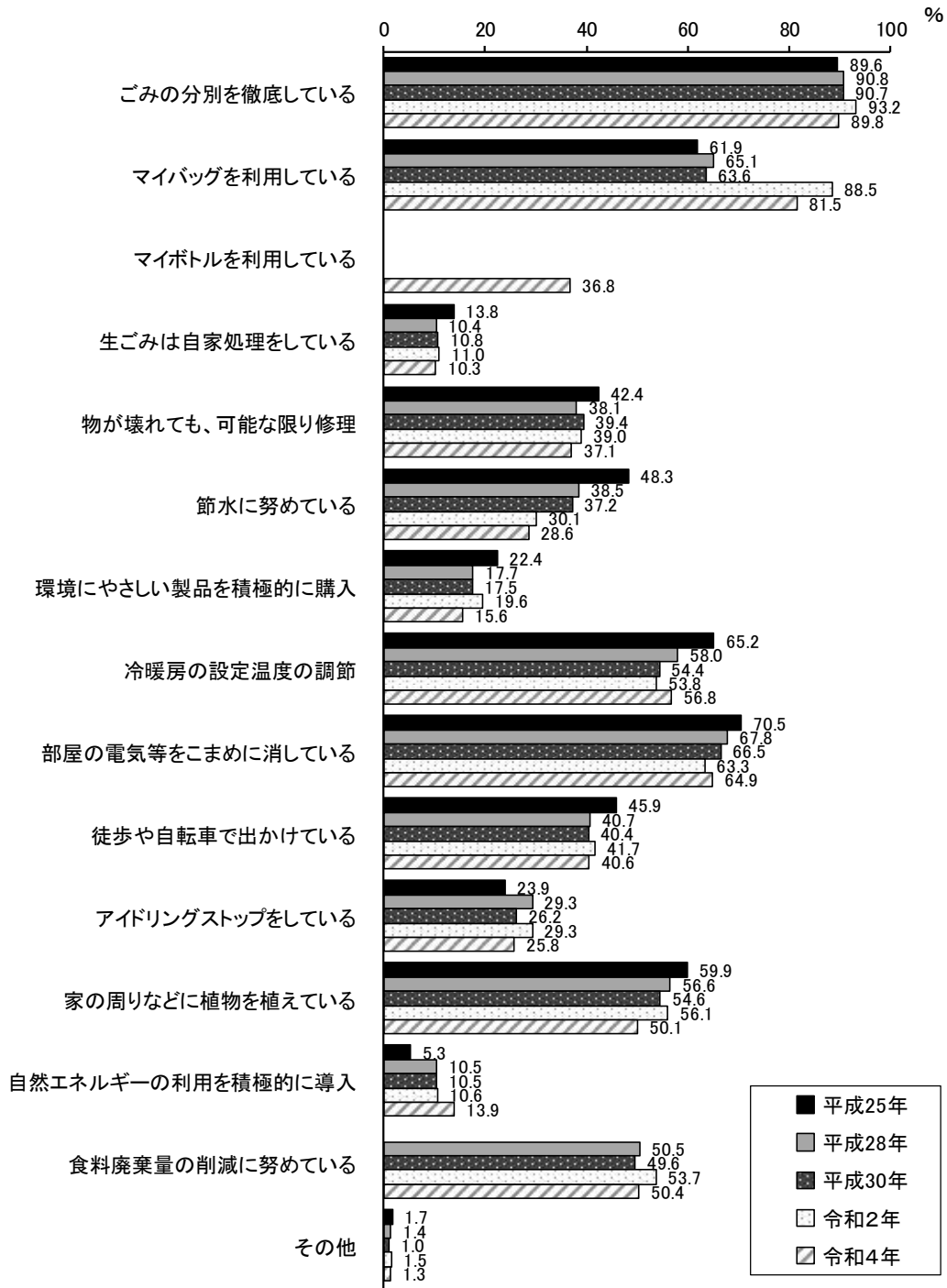
「マイバッグを利用している」は女性では50～59歳、60～69歳で9割を超えて高くなっています。男性は18～19歳、20～29歳で8割を超えて高くなっています。

「部屋の電気等をこまめに消している」は男性では80歳以上が74.0%と最も高く、女性では80歳以上が90.6%と最も高くなっています。

「冷暖房の設定温度の調節」は女性の70～79歳が71.1%、男性では80歳以上が64.0%と最も高くなっています。

「家の周りなどに植物を植えている」は男性・女性ともに年齢が高くなるほど割合が高い傾向となっており、男性では80歳以上が82.0%、女性では70～79歳が74.4%と最も高くなっています。

環境のために心がけていること（経年比較）



※今回から「マイボトルを利用したり、使い捨てプラスチック製品の利用を控えている」の選択肢が追加されました。

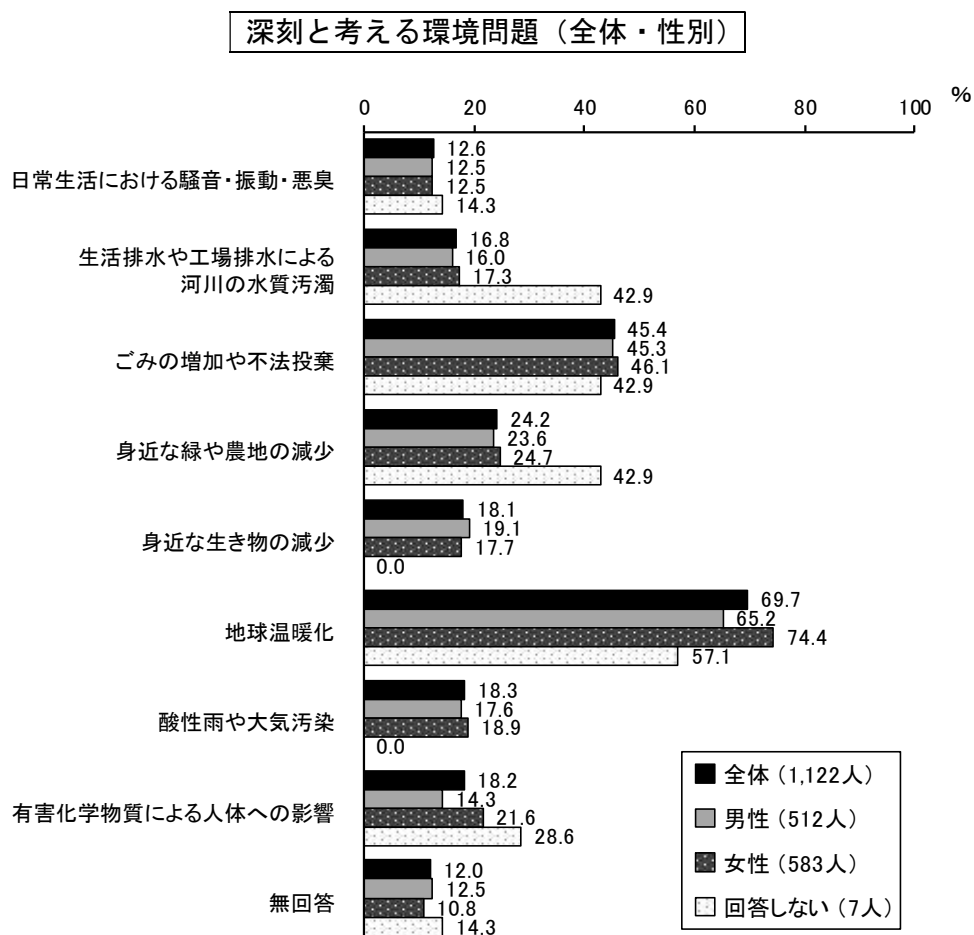
令和2年度調査と比較すると「自然エネルギーの利用を積極的に導入」は3.3ポイント、「部屋の電気等をこまめに消している」は1.6ポイント増加しています。

4-3 環境問題の深刻度・重要度

◆「ごみの増加や不法投棄」「地球温暖化」が深刻度、重要度ともに比較的高い◆

問 10. 環境問題について、次あげる項目で、「すでに深刻な問題である」ということと、今後、改善していくうえで「重点的に取り組んでいく必要がある」ということについて、それぞれ3つまで選び、番号を○で囲んでください。

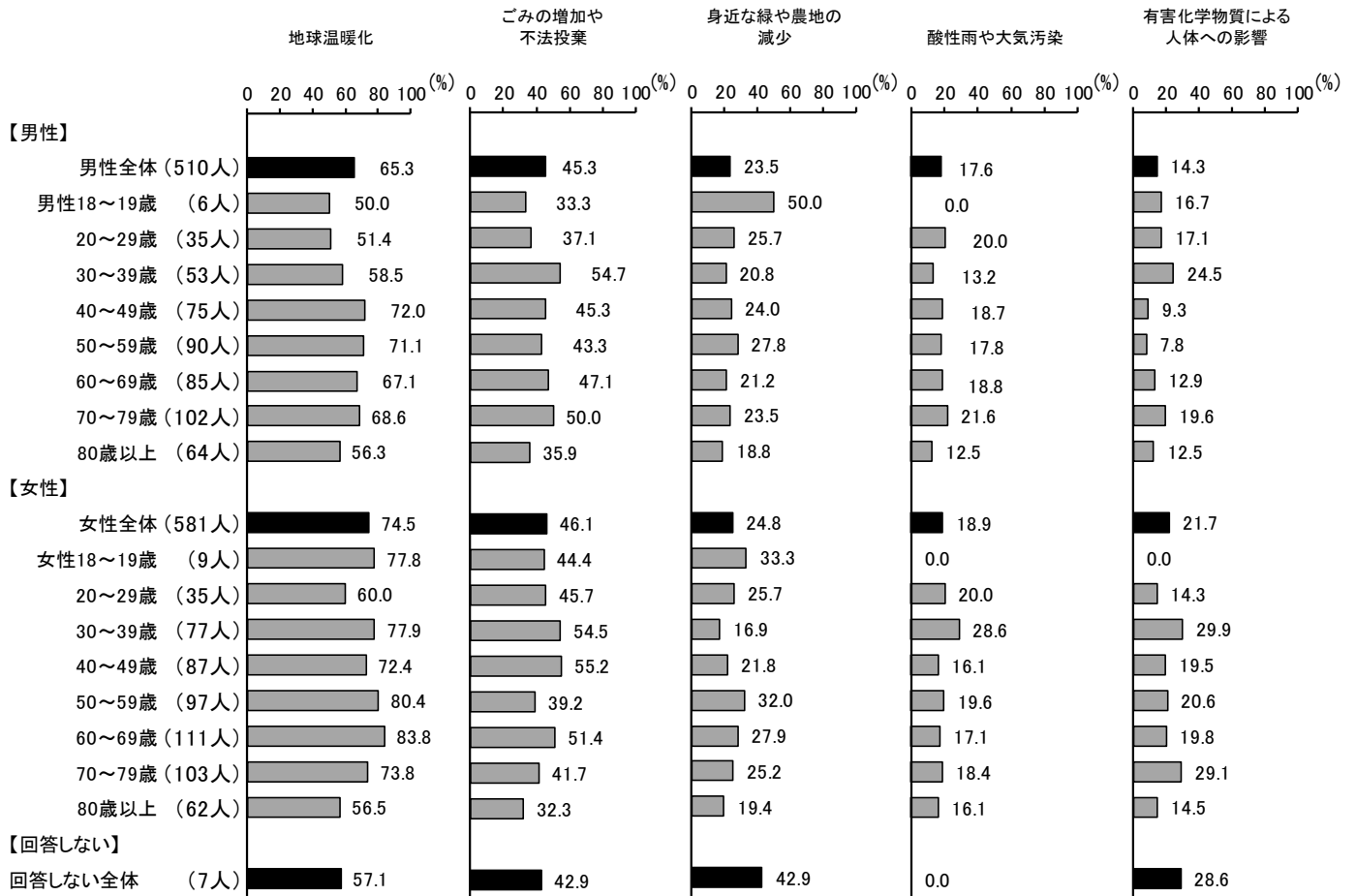
すでに深刻な問題である



全体では「地球温暖化」の割合が69.7%と最も高く、次いで「ごみの増加や不法投棄」の割合が45.4%、「身近な緑や農地の減少」の割合が24.2%となっています。

性別で見ると「地球温暖化」「有害化学物質による人体への影響」は女性が男性を5ポイント以上、「身近な生き物の減少」は男性（19.1%）が女性（17.7%）を1.4ポイント上回っています。

深刻と考える環境問題（上位5項目 性・年代別）



性・年代別で見ると「地球温暖化」は男性の40～49歳で72.0%、女性の60～69歳で83.8%と最も高くなっています。

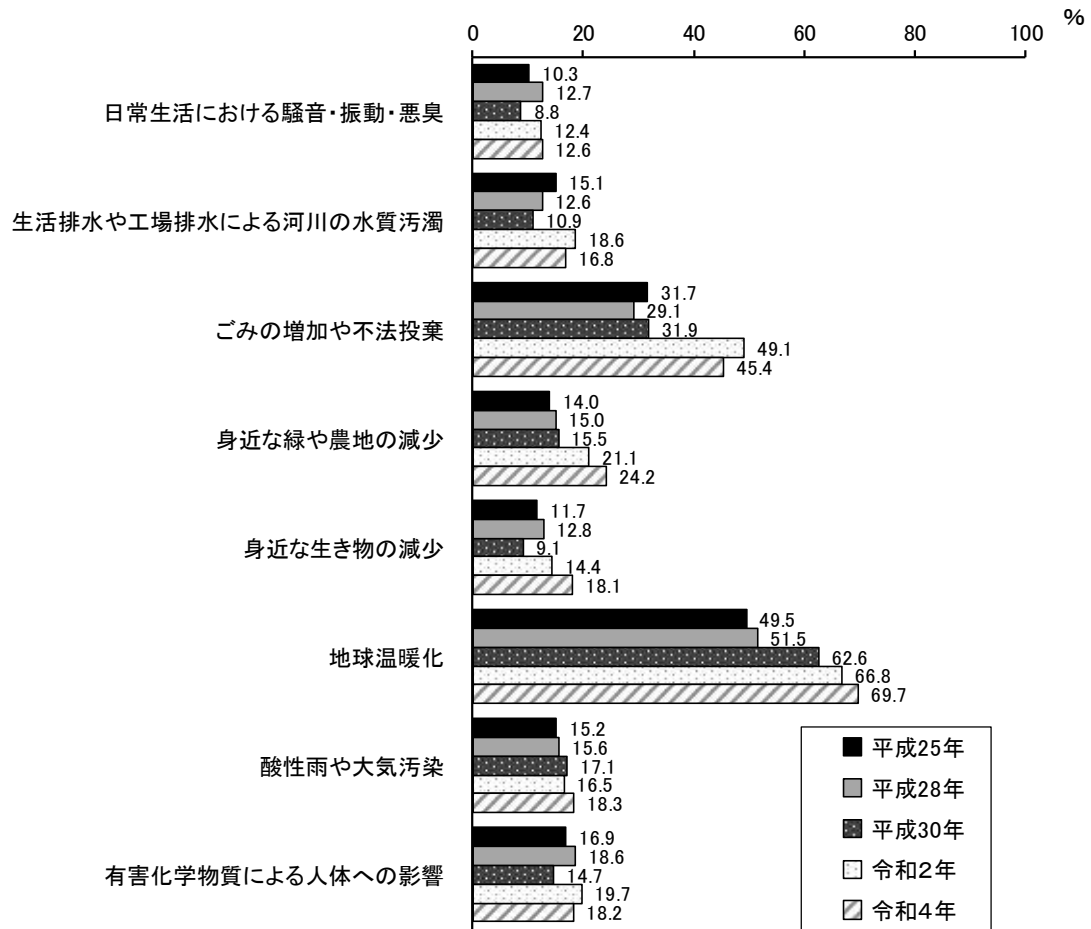
「ごみの増加や不法投棄」は男性の30～39歳で54.7%、女性の40～49歳で55.2%と最も高くなっています。

「身近な緑や農地の減少」は男性の18～19歳で50.0%、女性の50～59歳で32.0%と最も高くなっています。

「酸性雨や大気汚染」は男性の70～79歳で21.6%、女性の30～39歳代で28.6%と最も高くなっています。

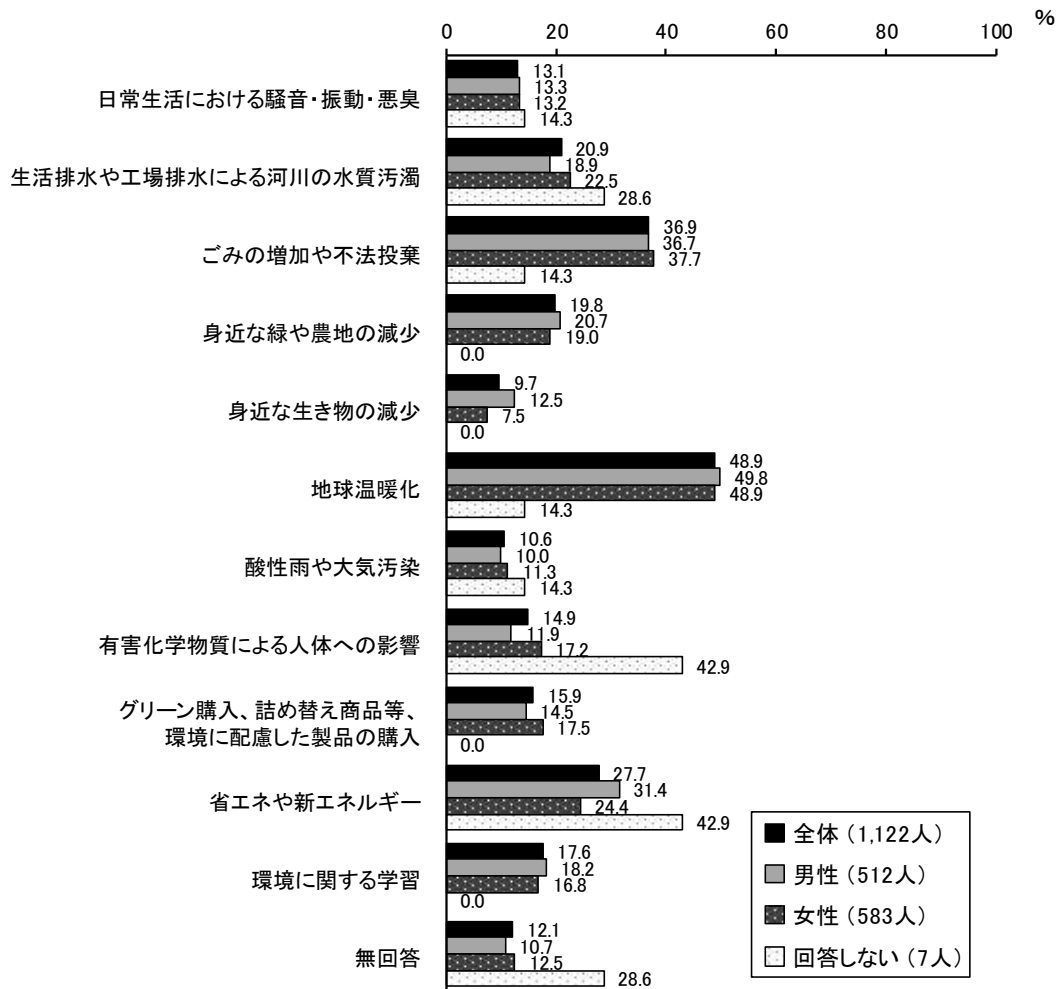
「有害化学物質による人体への影響」は男性の30～39歳で24.5%、女性の30～39歳で29.9%と最も高くなっています。

深刻と考える環境問題（経年比較）



令和2年度調査と比較すると「身近な生き物の減少」が3.7ポイント増加しています。一方、「ごみの増加や不法投棄」が3.7ポイント減少しています。また、平成25年度調査以降、「地球温暖化」「身近な緑や農地の減少」は増加しています。

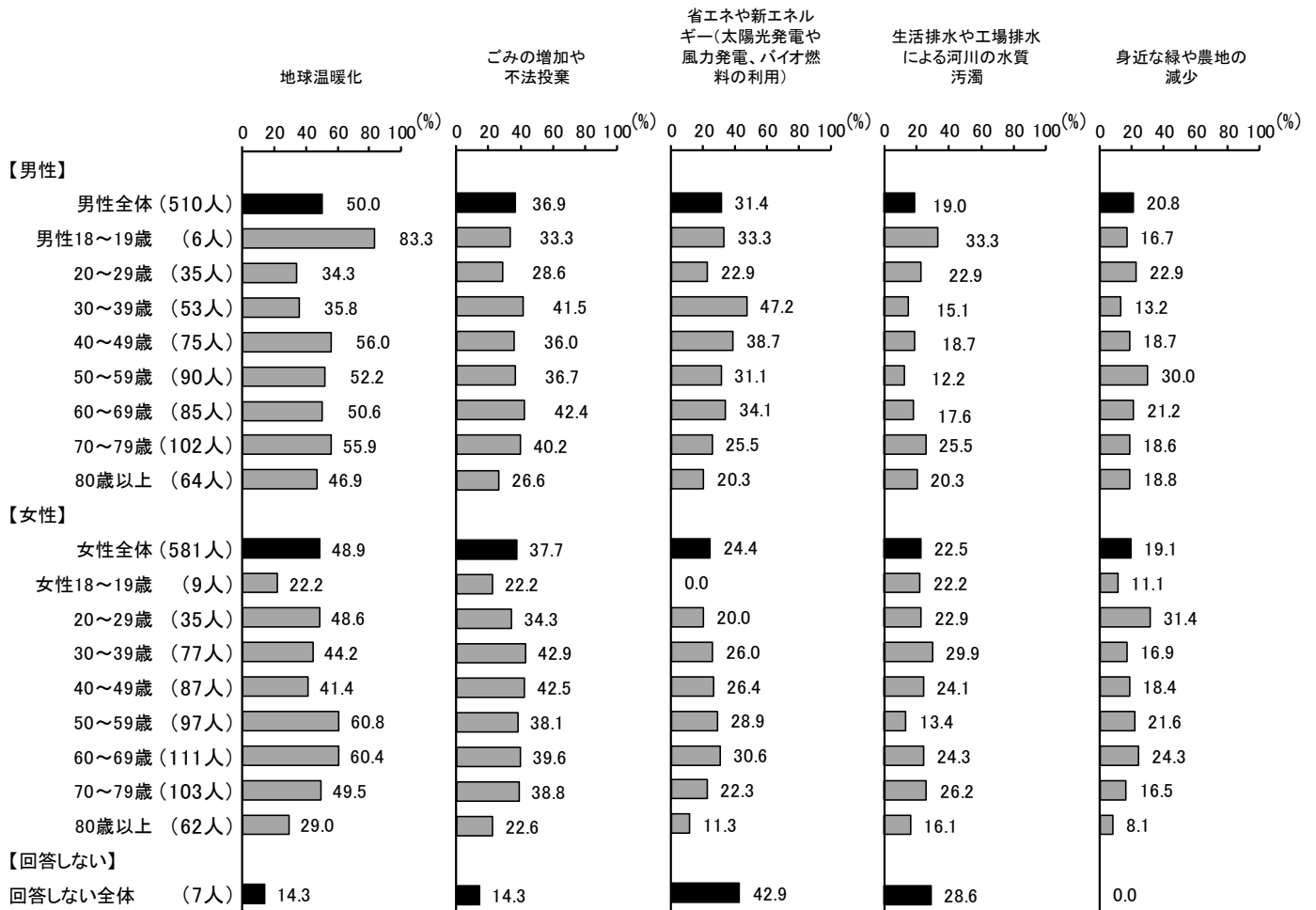
重点的に取り組んでいく必要がある環境問題（全体・性別）



全体では「地球温暖化」の割合が48.9%と最も高く、次いで「ごみの増加や不法投棄」の割合が36.9%、「省エネや新エネルギー（太陽光発電や風力発電、バイオ燃料の利用）」の割合が27.7%となっています。

性別で見ると「省エネや新エネルギー」は男性（31.4%）が女性（24.4%）を7.0ポイント、「身近な生き物の減少」は男性（12.5%）が女性（7.5%）を5.0ポイント上回っています。また「有害化学物質による人体への影響」は女性（17.2%）が男性（11.9%）を5.3ポイント上回っています。

重点的に取り組んでいく必要がある環境問題（性・年代別）



性・年代別でみると「地球温暖化」は男性の18~19歳で83.3%、女性の50~59歳で60.8%と最も高くなっています。

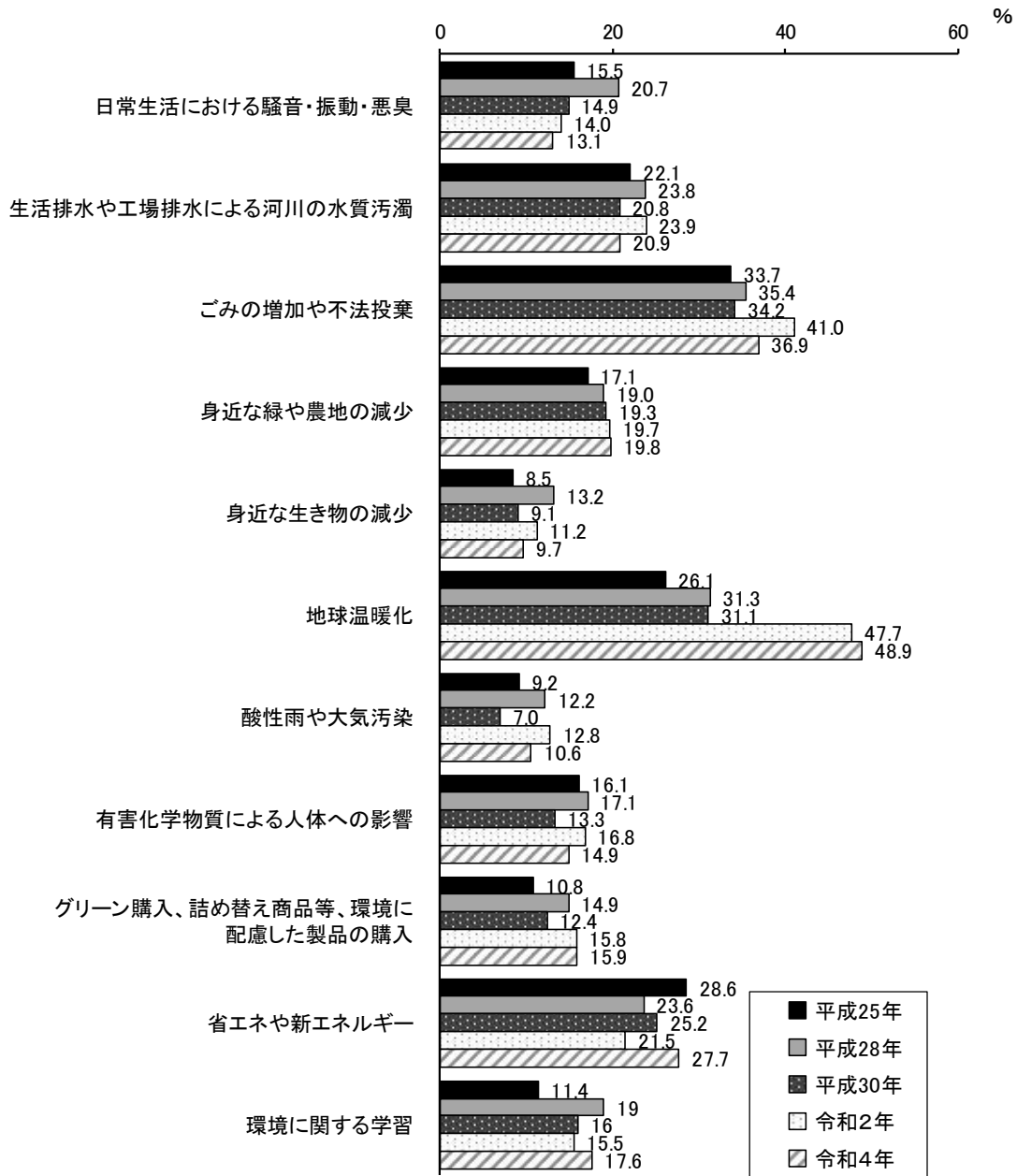
「ごみの増加や不法投棄」は、男性の60~69歳で42.4%、女性の30~39歳で42.9%と最も高くなっています。

「省エネや新エネルギー（太陽光発電や風力発電、バイオ燃料の利用）」は、男性の30~39歳で47.2%、女性の60~69歳で30.6%と最も高くなっています。

「生活排水や工場排水による河川の水質汚濁」は、男性の18~19歳で33.3%、女性の30~39歳で29.9%と最も高くなっています。

「身近な緑や農地の減少」は、男性の50~59歳で30.0%、女性の20~29歳で31.4%と最も高くなっています。

重点的に取り組んでいく必要がある環境問題（経年比較）



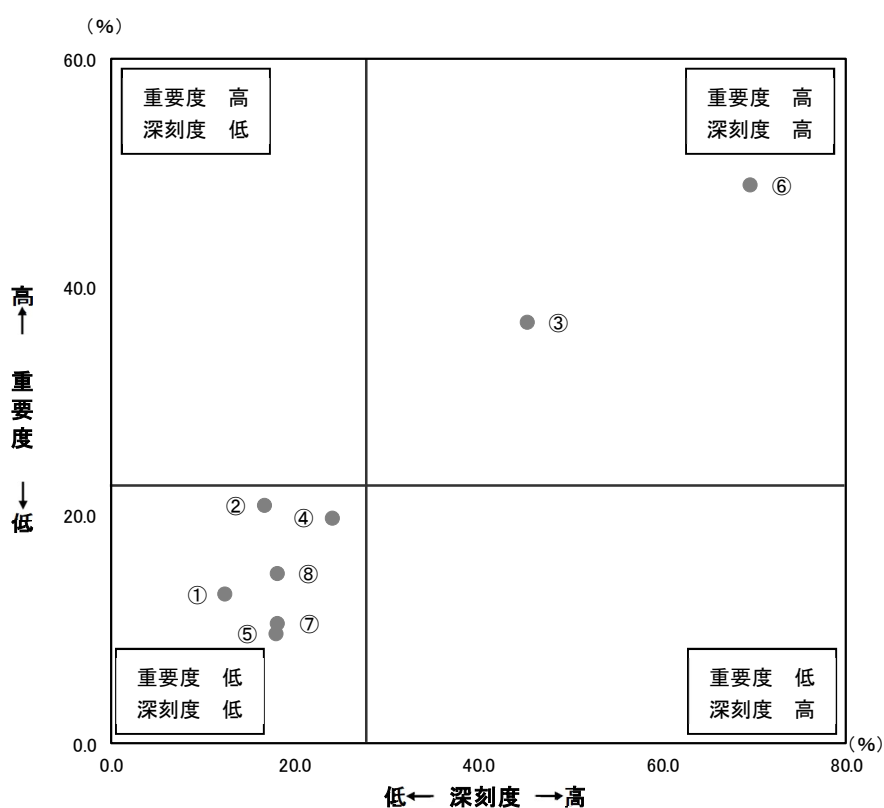
令和2年度調査と比較すると「省エネや新エネルギー」が6.2ポイント増加しています。一方、「ごみの増加や不法投棄」が4.1ポイント減少しています。

また、平成25年度調査以降「地球温暖化」は増加傾向にあります。

環境問題の深刻度及び重要度

(%)

		深刻度	重要度
①	日常生活における騒音・振動・悪臭	12.6	13.1
②	生活排水や工場排水による河川の水質汚濁	16.8	20.9
③	ごみの増加や不法投棄	45.4	36.9
④	身近な緑や農地の減少	24.2	19.8
⑤	身近な生き物の減少	18.1	9.7
⑥	地球温暖化	69.7	48.9
⑦	酸性雨や大気汚染	18.3	10.6
⑧	有害化学物質による人体への影響	18.2	14.9
⑨	グリーン購入、詰め替え商品等、環境に配慮した製品の購入		15.9
⑩	省エネや新エネルギー		27.7
⑪	環境に関する学習		17.6
	無回答	12.0	12.1



上記のグラフでは「すでに深刻な問題である (=深刻度)」を横方向、「重点的に取り組んでいく必要がある (=重要度)」を縦方向に示しています。

図中、右上の領域に位置する「③ごみの増加や不法投棄」「⑥地球温暖化」は、深刻度・重要度ともに高くなっています。

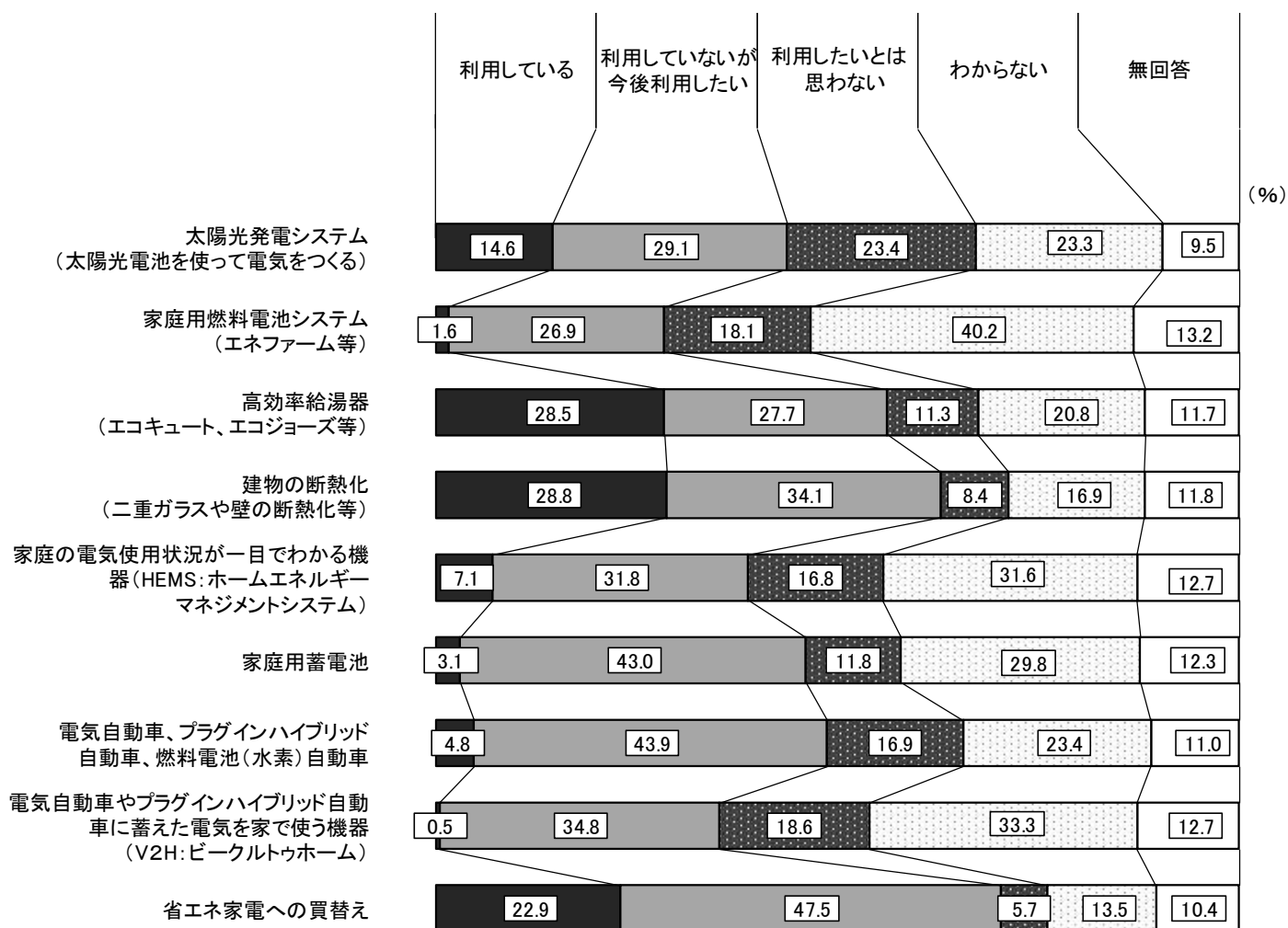
一方、その他の項目については深刻度・重要度ともに低くなっています。

4-4 省エネ設備や太陽光などの創エネ設備の利用状況

◆「建物の断熱化（二重ガラスや壁の断熱化等）」28.8%◆

問 11. あなたは、省エネ設備・家電や太陽光などの新エネルギーによる創エネ・蓄エネ設備を利用していますか。次の項目について、それぞれ1つ選び、番号を○で囲んでください。

省エネ設備や太陽光などの創エネ設備の利用状況



「利用している」は「建物の断熱化」が28.8%で最も高く、次いで「高効率給湯器」が28.5%となっています。

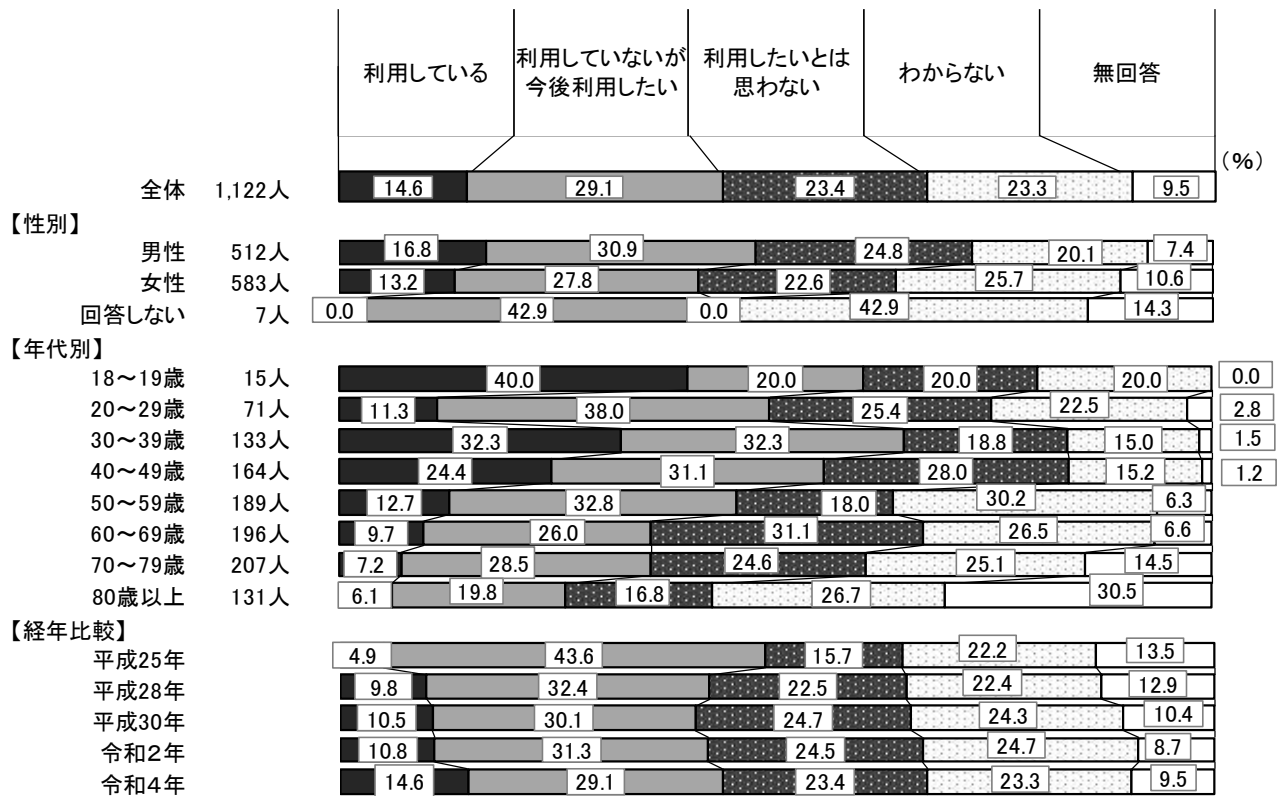
「利用していないが今後利用したい」は「電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池(水素)自動車」が43.9%で最も高く、次いで「家庭用蓄電池」が43.0%となっています。

「利用したいとは思わない」は「太陽光発電システム」が23.4%で最も高く、次いで「電気自動車やプラグインハイブリッド自動車に蓄えた電気を家で使う機器」が18.6%となっています。

太陽光発電システム（太陽電池を使って電気をつくる）

◆「利用している」14.6%、「利用していないが今後利用したい」29.1%◆

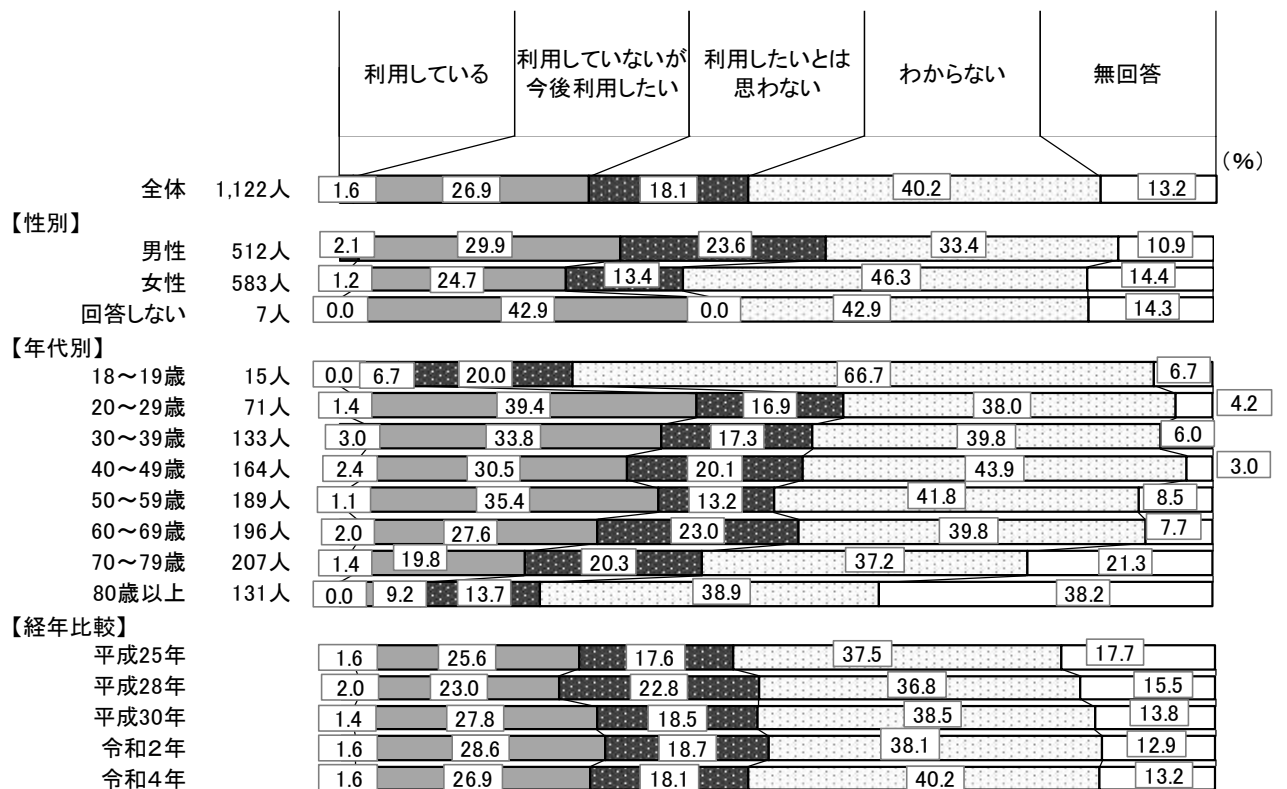
太陽光発電システム（太陽電池を使って電気をつくる）



家庭用燃料電池システム（エネファーム等）

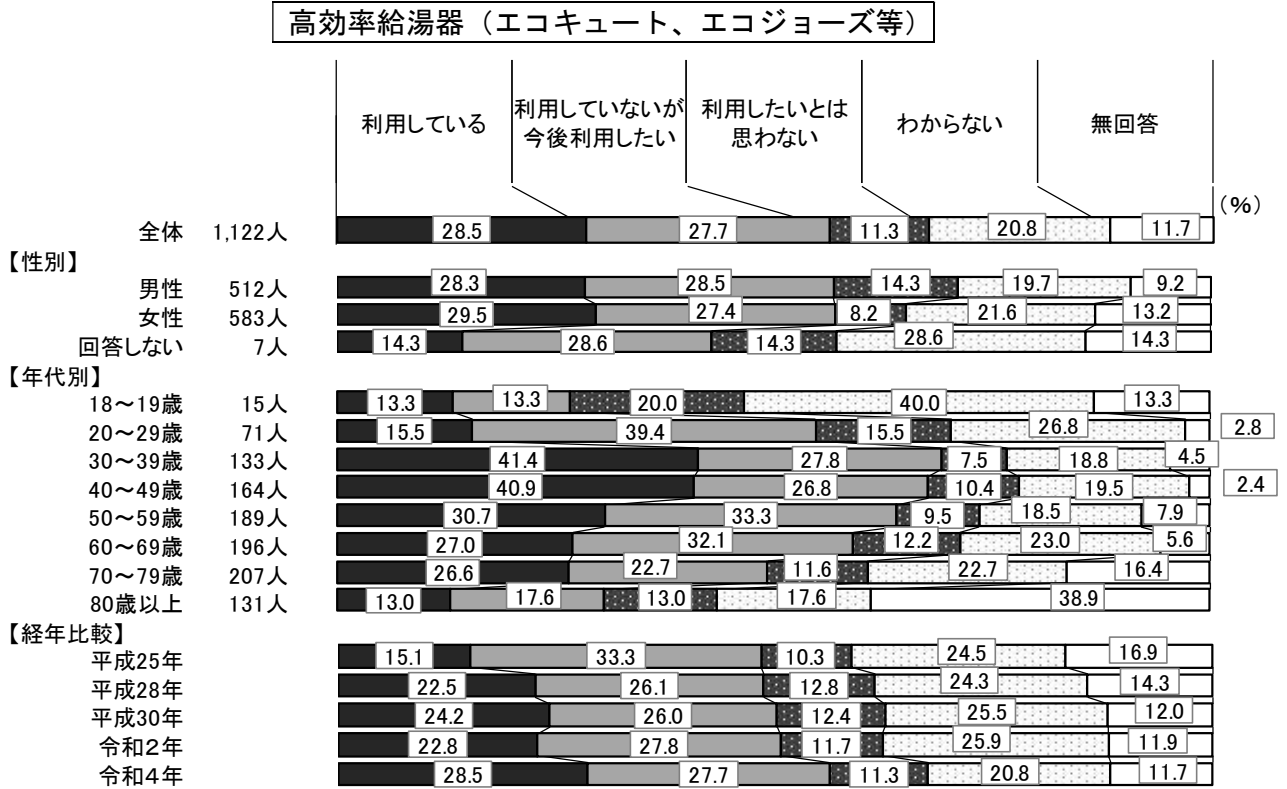
◆「利用している」1.6%、「利用していないが今後利用したい」26.9%◆

家庭用燃料電池システム（エネファーム等）



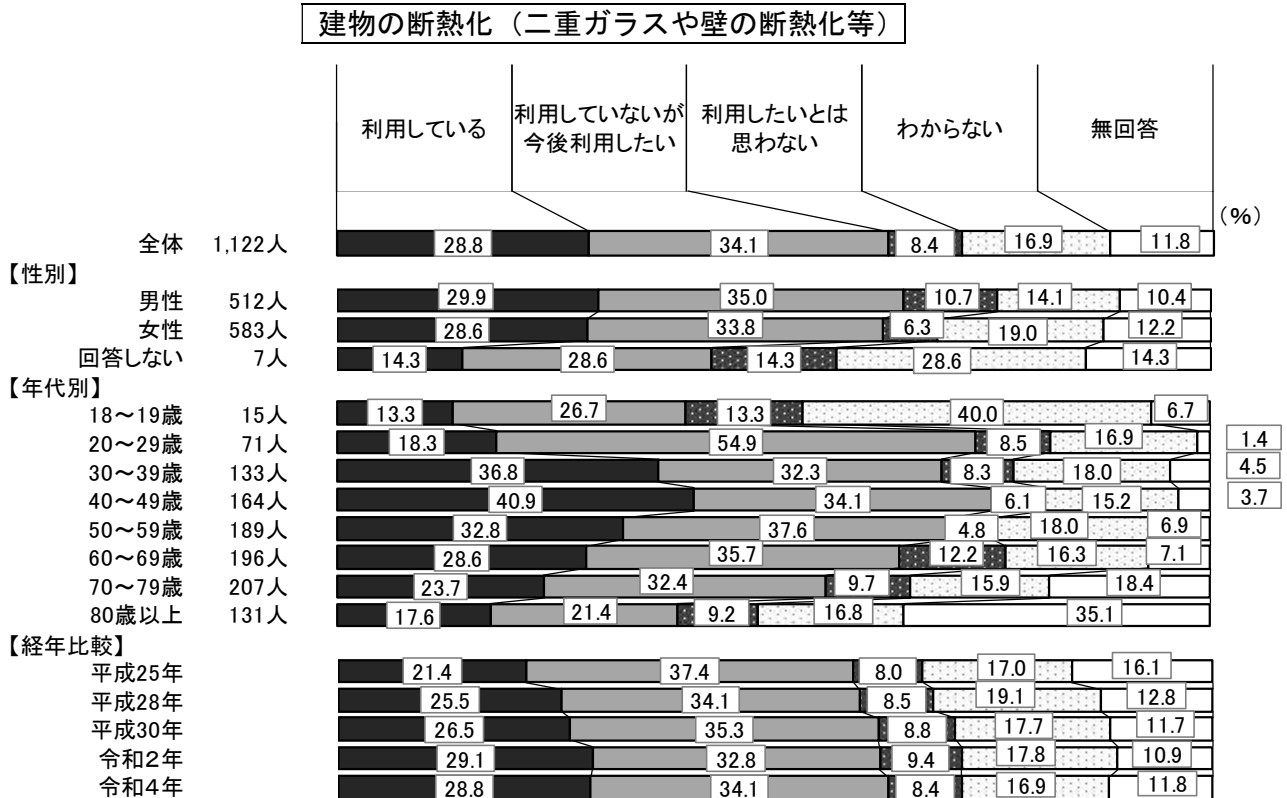
高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズ等）

◆「利用している」28.5%、「利用していないが今後利用したい」27.7%◆



建物の断熱化（二重ガラスや壁の断熱化等）

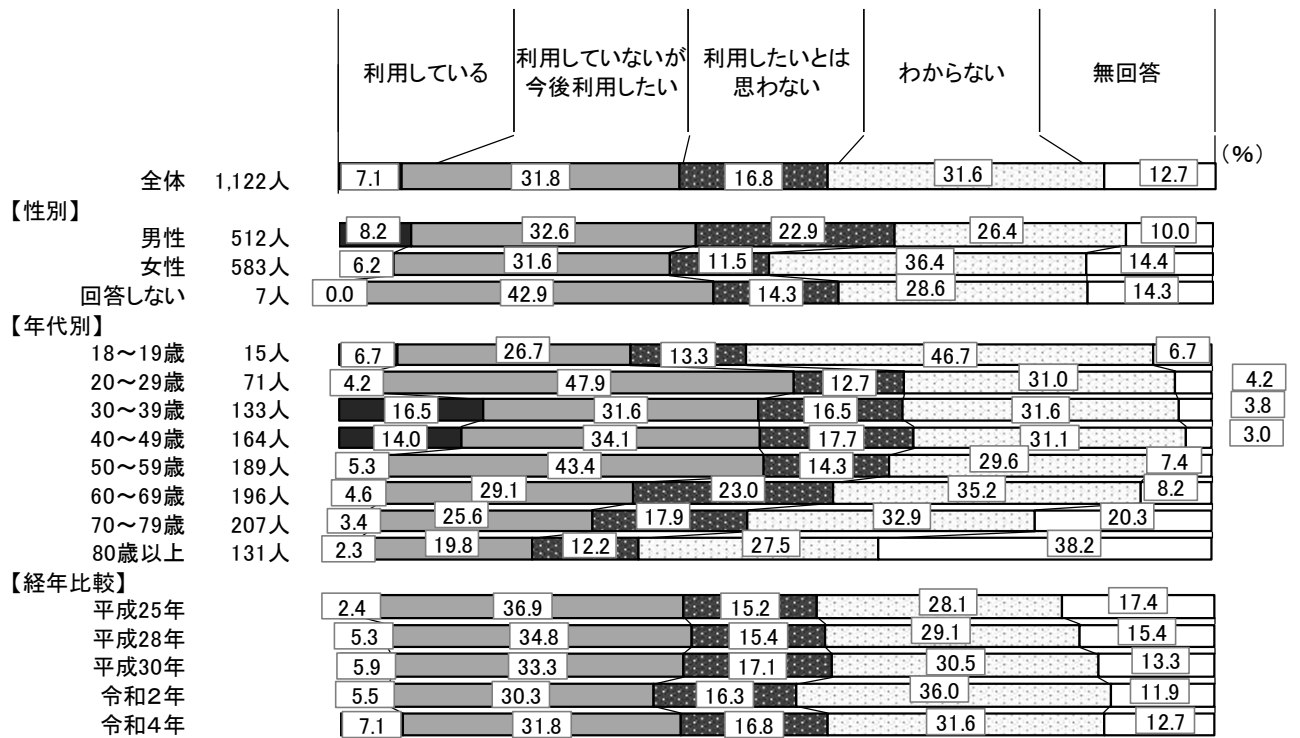
◆「利用している」28.8%、「利用していないが今後利用したい」34.1%◆



家庭の電気使用状況が一目でわかる機器（HEMS：ホームエネルギーマネジメントシステム）

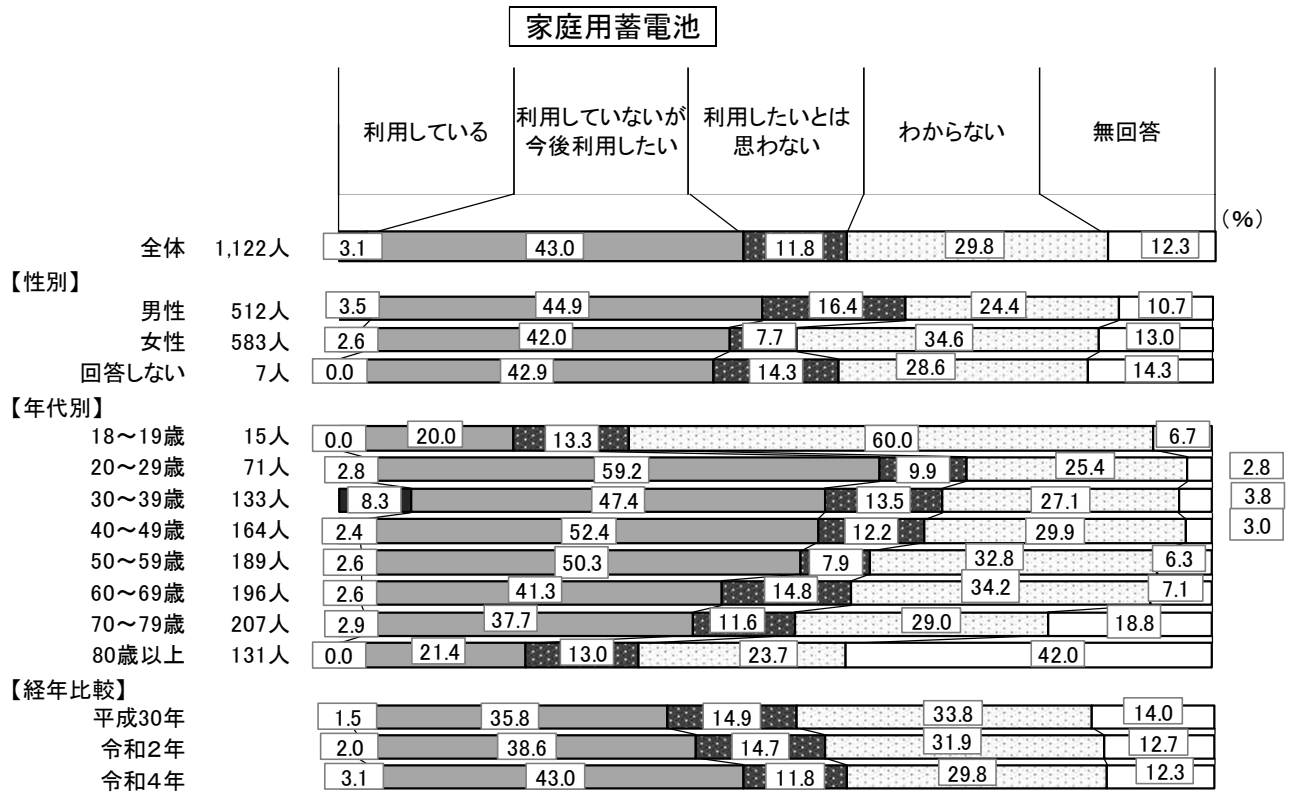
◆「利用している」7.1%、「利用していないが今後利用したい」31.8%◆

家庭の電気使用状況が一目でわかる機器（HEMS：ホームエネルギーマネジメントシステム）



家庭用蓄電池

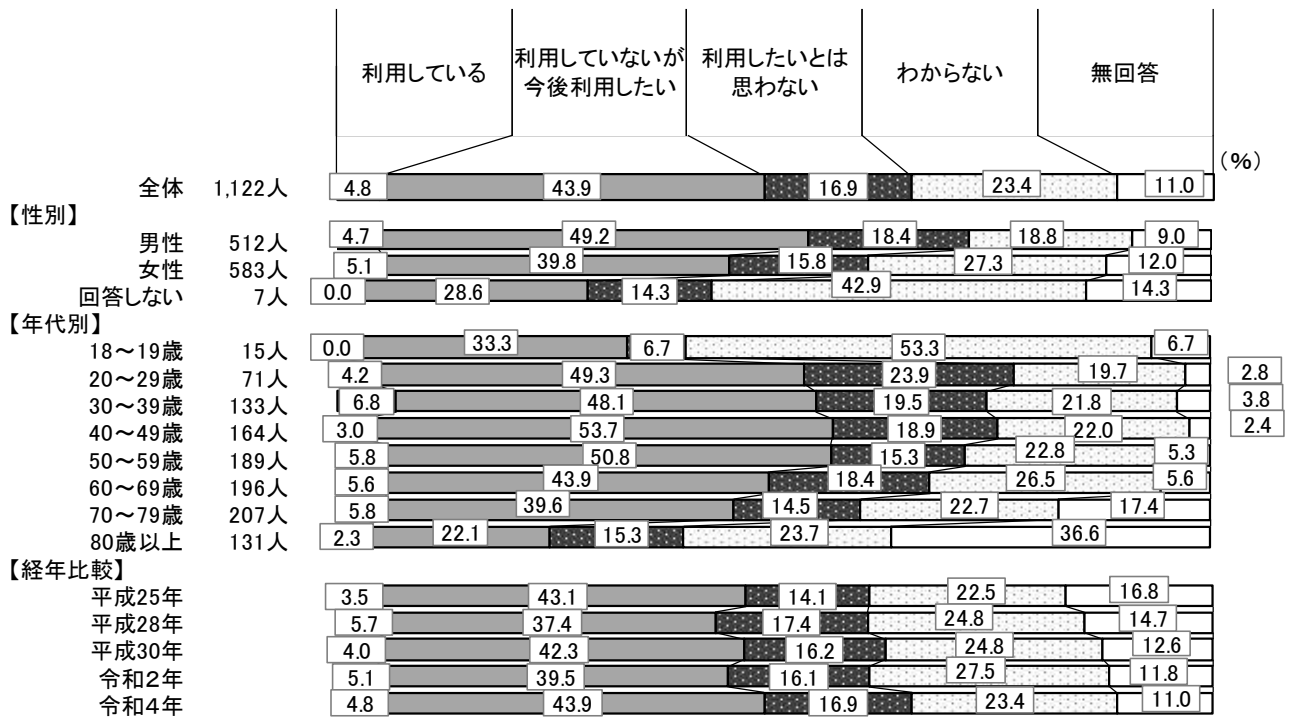
◆「利用している」3.1%、「利用していないが今後利用したい」43.0%◆



電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池（水素）自動車

◆「利用している」4.8%、「利用していないが今後利用したい」43.9%◆

電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池（水素）自動車



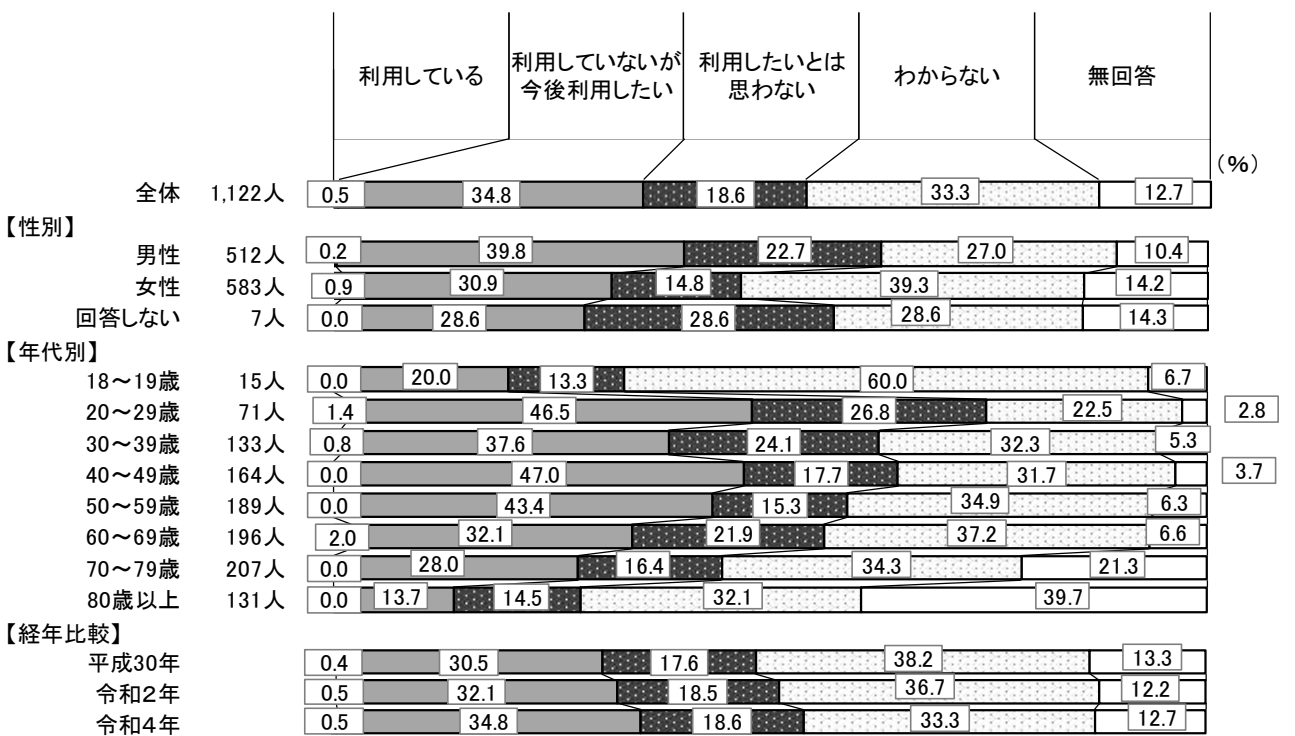
電気自動車やプラグインハイブリッド自動車に蓄えた電気を家で使う機器

(V2H: ビークルトゥホーム)

◆「利用している」0.5%、「利用していないが今後利用したい」34.8%◆

電気自動車やプラグインハイブリッド自動車に蓄えた電気を家で使う機器

(V2H: ビークルトゥホーム)



省エネ家電への買換え

◆「利用している」22.9%、「利用していないが今後利用したい」47.5%◆

